

越知町立越知小学校 環境学習

(主催：越知町立越知小学校 協力：高知県衛生環境研究所)

子ども達は、仁淀川の名前の由来や概要についての説明を受け、その後、清流度（川の水平方向の透明性を示すもので高知県が定めたもの）について、学校から一番近い中仁淀沈下橋（仁淀川本川）の結果と他の川（四万十川や仁淀川支川）の結果を比較したりして学びました。

各河川の清流度について学んだ後は、実際に衛生環境研究所が川の清流度を測るために使用する装置（清流度計）をのぞきこみ、どのように見えるかを楽しみながら体験しました。

また、仁淀川に生息する生き物について、事前に子ども達が中仁淀沈下橋で捕獲した結果を参考にしながら、川に生息する生き物と川の水質との関係について学びました。

中仁淀沈下橋ではどのような生き物を見つけたか子ども達に質問すると、「カワゲラを見つけた!」「トビケラもいた!」などの声が聞かれ、きれいな川にしか住めない生き物が多く出現した事が分かり、子ども達は『仁淀川のきれいさ』をさらに実感したようでした。

清流度やそこに住む生き物から仁淀川のきれいさについて学んだ後には、このきれいな川を守っていくために必要なこととして、ごみについてのお話がありました。

子ども達は川に捨てられ海にたどりつくようなペットボトルごみが分解されるまでに400年必要であるということに驚いていました。

授業後には、ごみをポイ捨てしないようにするといった感想がでるなど限られた時間でしたが、身近な川とそのきれいさを守るために何が必要かを学ぶ機会となったのではないのでしょうか。

